

カメラ人生の始まり

玄関を開けると色とりどりの大きな写真パネルが迎えてくれた。伊東さんが撮りためた傑作たちだ。写真歴はなんと50年。四季の風景をカメラに収めてきた伊東さんだが、実は教育者でもある。

20歳で教壇に立ち、22歳の時に念願のカメラを手にした。

「以前からカメラに興味はあったんですが終戦もない、教科書もないような時代で、当時の月給が2,500円でしたから9,000円のカメラはかなりの高級品でした。節約してやっとの思いで手に入れました。」

そんな伊東さんが一番最初に撮影したのは、受け持ちの生徒たちの姿。「撮影した生徒の写真は焼き増して

カメラ

本人たちに渡していました。私用にも焼いて、『担任の記録』アルバムを作ったんです」と語る、思い出のアルバムは数十冊にも及ぶ。

愛用のカメラはニコンD200、D300、D7000の3台。「一番最初に買ったカメラがニコンだったのですっかりニコン党なんですよ」と笑顔で語る。

伊東さんは、四季の風景を追いかけ、息子さんと九州各地に撮影に出かけることもあるそうだ。

上達のコツを尋ねると「50年以上カメラをにぎっているから、構図が自然に決まるんです。上達のコツはとにかくどんどん撮ることだと思います」と熱く語る。

カメラの縁

伊東さんは教員時代、集合写真、修学旅行、スポーツ大会など、生徒の姿をカメラに収めてきた。

教え子から同窓会のお誘いがある時はクラスの写真をビデオカメラに撮影し、上映を行う。すると自分たちの初々しい姿に大喜びされるそうだ。

また、今年82歳の誕生日を祝して撮りためた写真から、カレンダー「佐賀の四季」を製作した。市内の小・中学校にこのカレンダーを寄贈し、大変喜ばれたそうである。

カメラを通じた絆は、これからも広がっていく。

伊東さんありがとうございます。

I ogi

第2回
～ アイラブおぎ～




いとう しげよし
伊東 重悦さん

● プロフィール


1927年牛津町生まれ。佐賀青年師範学校を卒業後、20歳で教員になる。
1988年砥川小学校校長を定年退職。
その後、牛津町公民館で5年間、社会教育指導員として尽力。82歳。

● ギャラリー



 佐賀県内の四季を集めた「佐賀の四季」カレンダー



 清水の滝の紅葉。真っ赤な葉がまぶしい。



 芦川町の蓮の花。泥の中から、美しい花が咲く。